

# 農 研 速 報

平成 26 年 1 月 8 日発行  
茨城県農業総合センター農業研究所  
〒311-4203 茨城県水戸市上国井町 3402  
TEL029-239-7211 FAX 029-239-7306

生育状況（成熟期、水戸市）

県 名	収 穫 期		生 育 の 状 況	問 題 点	備 考
	本 年	平年対比			
茨城県 (水戸市)	ベニアズマ 10/15収穫  タマユタカ 10/15収穫	平年並み  平年並み	<p>かんしょ生育期間（5月21日～10月15日）の気象は、平均気温が平年（直近5ヶ年）より0.4℃高く、日照時間が平年比110%、降水量が平年比99%であった（水戸地方気象台観測値）。</p> <p>掘り取りは、平年並みの挿苗後147日に行った。 つる重は、ベニアズマ、タマユタカとも平年より重かった。</p> <p>地下部の生育は、ベニアズマでは1株当たり塊根数は平年並みで、塊根1個重が平年よりやや重く、上いも重が多かった。タマユタカでは、1株当たり塊根数が平年よりやや少なかったが、塊根1個重が平年より重く、上いも重は平年並みだった。 澱粉含量は、ベニアズマが平年よりやや高く、タマユタカは平年よりやや低かった。</p> <p>サイズ別収量は、ベニアズマのL以下が平年より少なく、2L以上が非常に多かった。タマユタカでは、S以下が平年より少なく、2L以上が多かった。</p> <p>塊根品質は、ベニアズマでくびれの発生率が最も高く、次いで曲がりの発生率が高かった。また、皮脈の発生率が平年より高かった。タマユタカでは、条溝の発生率が最も高く、次いで裂開の発生率が高かった。両障害とも平年より高い発生率だった。両品種とも、A品率は平年より低かった。</p>	・両品種のA品率低下	

表1 収量調査(挿苗後147日、10月15日掘り取り)

品種名	つる重			総いも重			上いも重			1株当たり塊根数(上いも)			塊根1個重(上いも)			澱粉含量		
	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (kg/a)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (個)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (g)	前年比 (%)	平年比 (%)	本年 (%)	前年比 (%)	平年比 (%)
ベニアズマ	361.3	126 (286.9)	154 (234.2)	390.0	102 (380.9)	114 (341.0)	383.3	102 (374.3)	115 (333.6)	3.1	117 (2.6)	101 (3.0)	310.1	86 (359.4)	109 (283.5)	24.8	101 (24.5)	105 (23.5)
タマユタカ	227.7	129 (176.1)	118 (193.7)	322.8	127 (254.1)	100 (321.8)	318.3	130 (244.5)	102 (312.7)	3.4	103 (3.3)	91 (3.7)	235.7	127 (186.1)	110 (213.7)	18.4	98 (18.8)	94 (19.5)

( ) 内は前年または平年の数値。平年値は平成20年～24年(5ヵ年)のデータの平均値。

塊根は直径3mm以上のもの、上いもは50g以上のものとした。

挿苗日:5月21日(ベニアズマは黒マルチ栽培、タマユタカは無マルチ栽培)、栽植密度:400株/a(畦間100cm×株間25cm)、施肥量(kg/a):N-P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>-K<sub>2</sub>O=0.3-1.0-1.0

表2 サイズ別収量、品質区分および障害いもの発生率

品種名	サイズ別収量			品質区分				障害いもの発生率					
	S以下 (kg/a)	M+L (kg/a)	2L以上 (kg/a)	A品率 (%)	丸品率 (%)	B品率 (%)	C品率 (%)	裂開 (%)	皮脈 (%)	条溝 (%)	曲がり (%)	くびれ (%)	尻こけ (%)
ベニアズマ	56.2	153.8	180.0	32.7	1.5	31.8	34.0	0.0	7.8	3.3	18.3	34.3	3.6
平年比(%)	84	77	245	84	125	93	136	0	389	73	105	93	105
タマユタカ	84.1	201.2	37.5	16.1	31.1	19.8	33.0	9.2	0.0	10.1	4.5	8.7	8.7
平年比(%)	78	108	136	66	64	114	326	256	-	247	62	93	184

塊根1個重により S以下:200g未満、M+L:200g以上500g未満、2L以上:500g以上 で区分した時の収量

品質区分・障害いもの判定は茨城県青果物標準出荷規格による。いも個数%

平年比の「-」は平年値が「0%」であることを意味する

農研所内圃場における収穫期状況（10月15日撮影）



ベニアズマ



タマユタカ